

顔面の反復炎症と薬剤増量後の急性悪化から皮膚状態が整った成人アトピーの経過 (44 歳 女性)

症例 ID：001-40-THm | 記録日：1999 年 9 月

1. 診断・治療前経過

1998 年 12 月、旅先で全身の赤みと熱感、痛みが突然出ました。薬局と皮膚科で外用薬・内服薬を使用し、以後は顔面症状を反復しました。

1999 年 6～7 月、内服薬を増量しても効かず、顔が大きく腫れました。仕事のため一度ステロイドを使用した後、松本医院を受診しました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	薬局と皮膚科で外用ステロイド、抗アレルギー薬、抗ヒスタミン薬を使用しました。
製品名	リドメックスコーワ軟膏。その他は不明です。
強度	不明です。
使用期間	1998 年 12 月から 1999 年 7 月頃まで断続的に使用しました。
中止時期	松本医院での治療開始時期です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
1998 年 12 月	発症	全身の赤み、熱感、痛みが出ました。
その後約半年	反復経過	顔面の湿疹を繰り返し、内服薬と保護外用を続けました。
1999 年 6～7 月	急性悪化	薬の増量後も顔面の赤みと腫れが拡大しました。
7 月 8 日頃	一時的外用	仕事のためステロイドを 1 日使用し、炎症を一時的に抑えました。
その後	治療開始	松本医院を受診し、従来薬を中止して治療を開始しました。
治療 2 か月	経過中	顔の透明感と皮膚状態が戻り、時折軽い赤みが出る程度となりました。

4. ピーク時期

ピークは 1999 年 7 月初め、顔全体が腫れ、熱感と痛みで仕事の準備も困難となった時期です。

5. 困りごと

- 顔面症状のため講師として人前に立つ仕事への支障がありました。
- 検査や薬剤変更を繰り返しても治療の見通しが立たない不安がありました。

6. 経過のまとめ

治療開始約 2 か月後には、久しぶりに透明感のある皮膚状態がみられました。

時折、顔や首に軽い赤みは出ましたが、治療を続けながら仕事を行っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。